カユみ

狐狸野類

カユみ

春の折に触れて
わっと声の出るように
若い緑は豊かだが
河水はくすぐるように
冷やっこいが
花々は知っている
暗い土の下で
私はただカユいのだ
小虫の羽音と鳥のさえずり

その区別もつかぬほど
私はただカユいのだ
花々は謡いかける
目の覚める美しさを
心地よい微睡みを
けれども、諦めるが良い
私はただカユいのだ
壊れて死んでどこへも行けぬ
私はただカユいのだ